

平成23年度学融合推進センター学融合研究事業 成果報告書

研究テーマ名称	科学広報と学術コミュニケーション
応募事業区分	(c)「公募型共同研究」(b)「新課題抽出支援」
申請代表者氏名	森田洋平

○ 研究状況報告

本研究事業は、①学問の先鋭化問題に対して、科学広報・学術コミュニケーション及びその教育が担う役割、②発展途上の科学広報評価のあり方、③プレスリリースの今後の方向性、以上3つのテーマに焦点をあてて研究を推進している。また、今後の新しい「科学広報と学術コミュニケーション」活動・教育を議論する研究会を開催している。研究会には特に、総研大と協力関係にある、基盤機関の広報担当教員に参加を呼び掛け、各機関に密接に関連する上記テーマについての取組を紹介してもらおうと共に、今後の方向性について議論している。

本研究事業は主に大学共同利用機関等の総研大基盤機関所属広報室の担当教員から構成されており、ほとんど全研究メンバーが総研大レクチャー「科学コミュニケーション」担当教員でもある。よって、本研究で提示される「科学広報・学術コミュニケーションの新しい役割」を、現場の大学院教育の取組として落とし込んでいっている。

○ 当該事業年度において達成された研究成果

2011年11月28日(月)に学術総合センター(一ツ橋)特別会議室にて、研究会を開催した。国内各機関の広報担当者や科学コミュニケーション関係者28名が参加した。session1:科学広報・学術コミュニケーション及びその教育が担う役割、session2:科学広報評価のあり方、session3:プレスリリースの今後の方向性、の3つの課題について、下記の9講演が行われ、会場では白熱した議論が展開された。

session1:科学広報・学術コミュニケーション及びその教育が担う役割(座長:標葉隆馬)

-生物学分野の広報の実際「基礎生物学研究所WEBマガジンの試み」(基礎生物学研究所 倉田智子)

-国際共同利用天文台ALMAの広報の実際(国立天文台 平松正顕)

-HPGI戦略プログラムの広報の実際(筑波大学 吉戸智明)

-震災等危機管理時のコミュニケーション(早稲田大学 田中幹人)

-科学広報・学術コミュニケーション及びその教育が担う役割(総研大 標葉隆馬)

-総研大レクチャー『科学コミュニケーション』で目指す学融合大学院教育(総研大 眞山聡)

-議論

session2:科学広報評価のあり方(座長:森田洋平)

-科学広報評価概論(高エネ研 森田洋平)

-議論

session3:プレスリリースの今後の方向性(座長:眞山聡)

-総研大との共同プレスリリースについての提案(総研大 眞山聡)